

宮田直彦のエリオット波動レポート

マーケット見通し(短期アップデート) 11 月 26 日 9:55AM 更新

[日経平均]

【当面の想定レンジ】 34,000～42,000 円

[NY ダウ]

【当面の想定レンジ】 38,500～45,250 ドル

[ナスダック]

【当面の想定レンジ】 18,000～19,500

[米ドル/円]

【当面の想定レンジ】 137.000～157.600 円

[ドルインデックス(ドル指数)]

【当面の想定レンジ】 99.578～108.071

エリオット波動とは

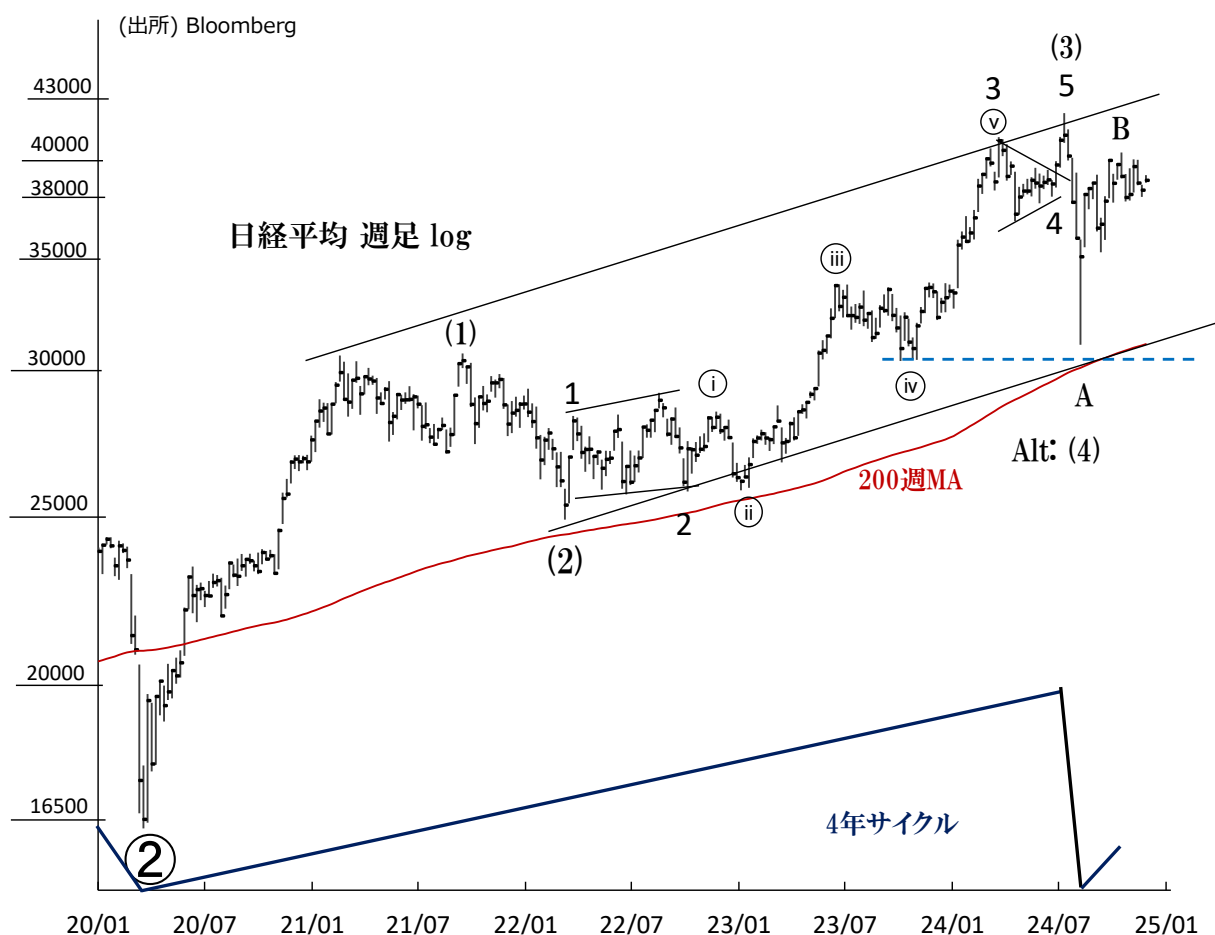
株式・為替動向を予想する心強いテクニカル手法

米国人ラルフ・ネルソン・エリオットが提唱した、今後の株式や為替など市場価格の動向を予想する手法です。相場は5つの上昇波と3つの下降波（合計8つの波）で一つの周期を作るパターンに従って展開するとされます。

このパターンは集団心理によるもので、数分から数十年といった様々な時間軸において観察されます。

フィボナッチ数列、黄金分割比率をチャート分析に初めて導入したのもエリオットです。

日経平均



【週足 エリオット波動分析】

42,426 円(7/11 高値)以来の第(4)波(インターミディエイト級)中 A 波は、31,156 円(8/5 安値)を以て終わったとみられます。それは 20 年 3 月以来の 4 年サイクル底に相当します。あるいは、8 月から第(5)波の上昇に既に入ったかもしれません。

日経平均は、来年 42,426 円を上抜き最高値を更新する可能性が高い、とみています。

もっとも日経平均予想 EPS は、2514 円(10/5)で頭打ちとなっています。11 月 25 日は 2463 円と持ち直しの動きもみられますが、今後はどうでしょうか。この先 **製造業を中心に業績見通しに陰りが生じると、第(5)波は 4 万 5000 円に届かないでしょう。**

第(5)波の終点高値は、最短ですと 2025 年 2 月頃(節分天井)に付けてしまうでしょう。



【日足 エリオット波動分析】

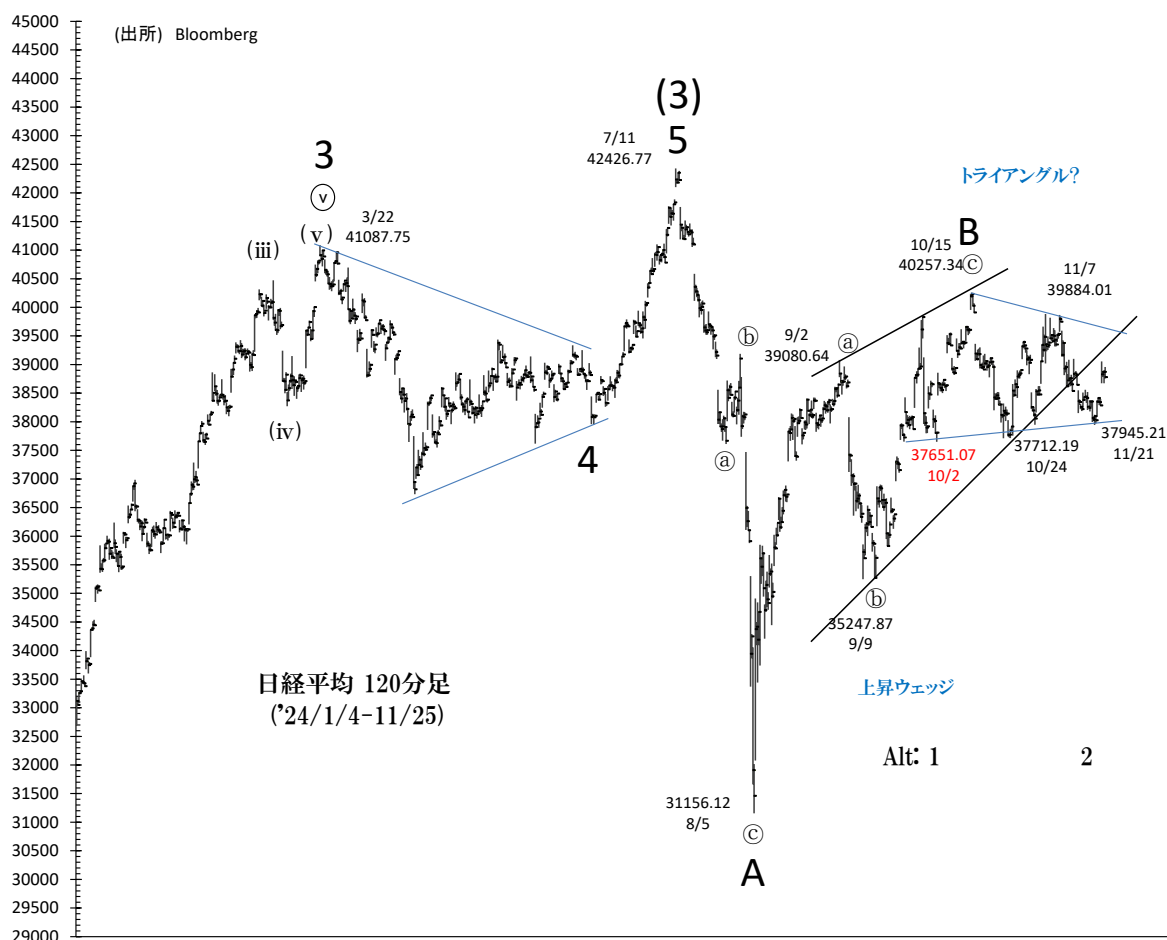
31,156 円(8/5 安値)からのリバウンド[第(4)波中 B 波]は 40,257 円(10/15 高値)を以て終了した、とみられます。40,257 円(10/15 高値)を頂点とする[ヘッド・アンド・ショルダーズ]は、戻り高値を付けた可能性を示唆しています。

この見方に基づくと、日経平均はまもなく急落開始となり、年末から年明けにも 35,247 円(9/9 安値)を下回るでしょう。それは 8 月の「一番底」に次ぐ「二番底」になるでしょう。

(オルタナティブ・カウント)

31,156 円(8/5 安値)は第(4)波の終点底であり、そこから第(5)波による上昇が進行しています。

この見方が正しければ、日経平均は「二番底」を付けず、じり高基調を続けるでしょう。そんな中、年末から年明けにも最高値を更新するでしょう。



【時間足 エリオット波動分析】

当面の日経平均の見通しは以下の二通りです。

[メインシナリオ] 35,247 円を下回り、「二番底」を形成

7 月高値以来の第(4)波は[トライアングル(A-B-C-D-E)]を形成中です。

31,156 円(8/5 安値)からの B 波((a)-(b)-(c))によるリバウンドは 40,257 円(10/15 高値)で終わり、そこからは C 波((a)-(b)-(c))による下げが進行中です。

37,651 円(10/2 安値)を下抜くと、ネックラインからの下放れ開始が確認され、C 波による下落基調は鮮明になりそうです。最終的に C 波は 35,247 円(9/9 安値)を下回り、8 月安値に次ぐ「二番底」を付けるでしょう。

「二番底」の水準については、フィボナッチ比率から以下の水準に注目できます。

[34,632 円]…B 波の上昇に対し 61.8%押し水準

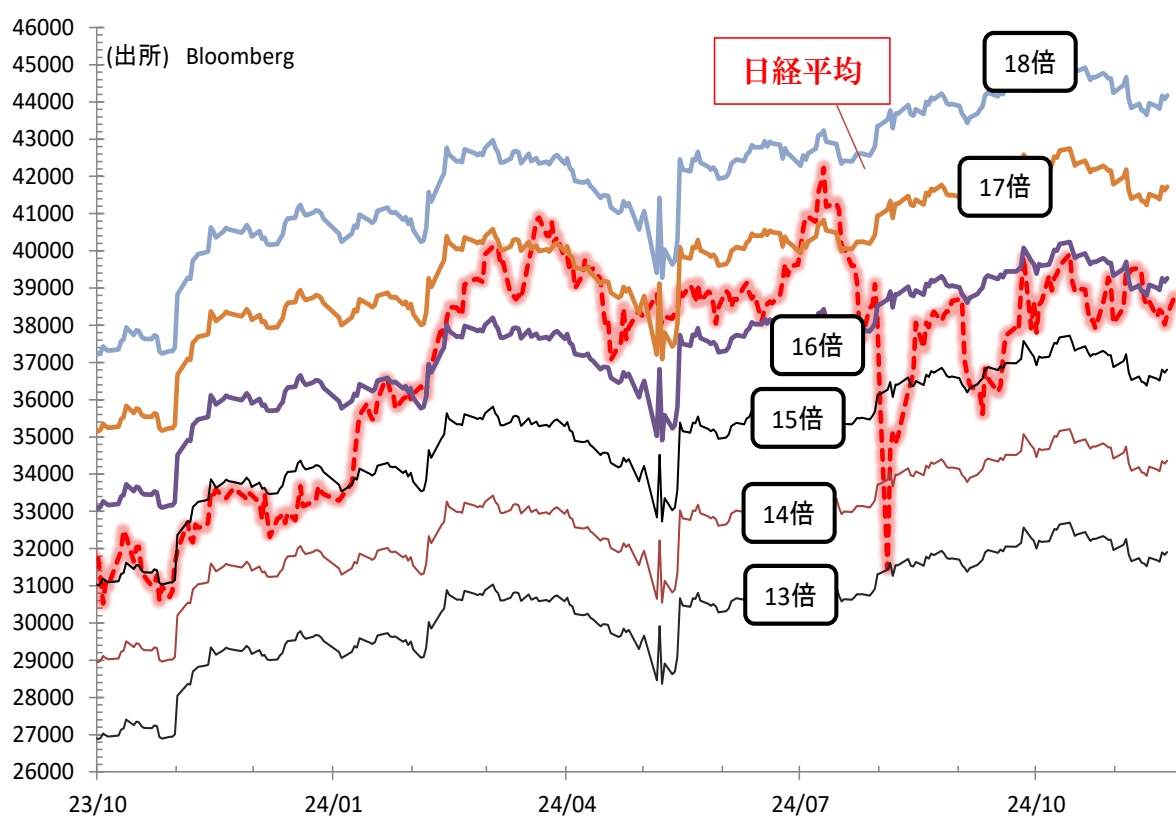
[33,304 円～33,103 円]…同 76.4%～78.6%押し水準

[サブシナリオ] 第(5)波は「エンディング・ダイアゴナル」

31,156 円(8/5 安値)からは第(5)波による上昇であり、そのパターンは波の重複が目立つ「エンディング・ダイアゴナル」です。

37,954 円(11/21 安値)からは、(5)波-3 波の上昇に入った可能性があります。39,884 円(40,257 円(11/7 高値)を上抜くと、9 月以降のトライアングルから上放れ開始となり、42,426 円(7/11 高値)を試す強気の展開になりそうです。

[予想 PER 別の日経平均水準]



NY ダウ



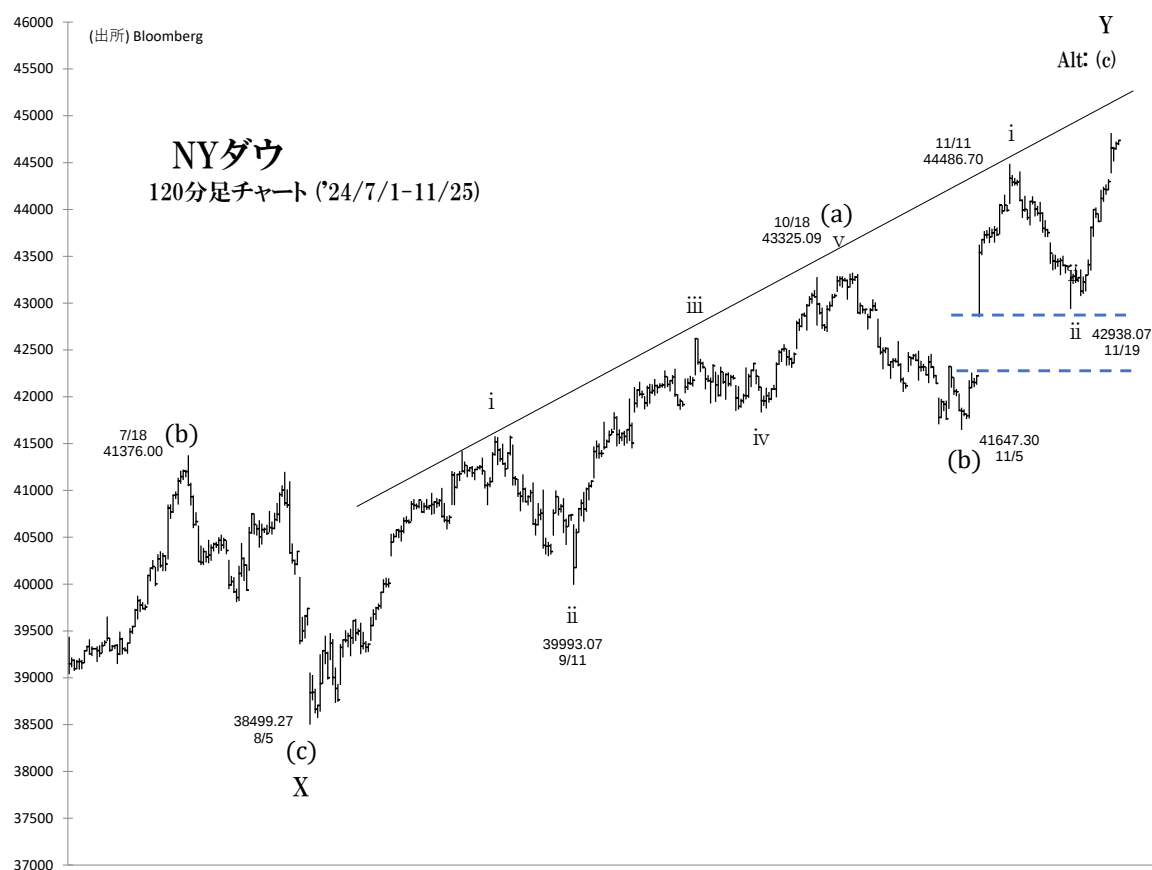
【日足 エリオット波動分析】

22 年 10 月安値(28,660ドル)以来の上昇(B)波は、[ダブル・ジグザグ(W-X-Y)]により展開しています。そのうち 38,499ドル(8/5 安値)を起点とする上昇は、Y 波(ジグザグ)に相当します。

11 月 25 日、NY ダウは最高値を更新しました(一時 44,815ドルまで上昇)。

長期的なチャネルラインをみると、[4 万 6000ドル]付近に重要なチャート節目が存在しています。実際にそこまで上がるかはわかりませんが、さらなる上昇がある場合の目安として注目です。

なおこの Y 波を終了すると、NY ダウは(C)波による下落に入っていくでしょう。(C)波は 22 年 10 月以降で一度もなかった、最大スケールの調整になるでしょう。



【時間足 エリオット波動分析】

38,499ドル(8/5 安値)から 43,325ドル(10/18 高値)までは(a)波による上昇、そこから 41,647ドル(11/5 安値)までの下げは(b)波。そして、足元は(c)波による上昇とみられます。

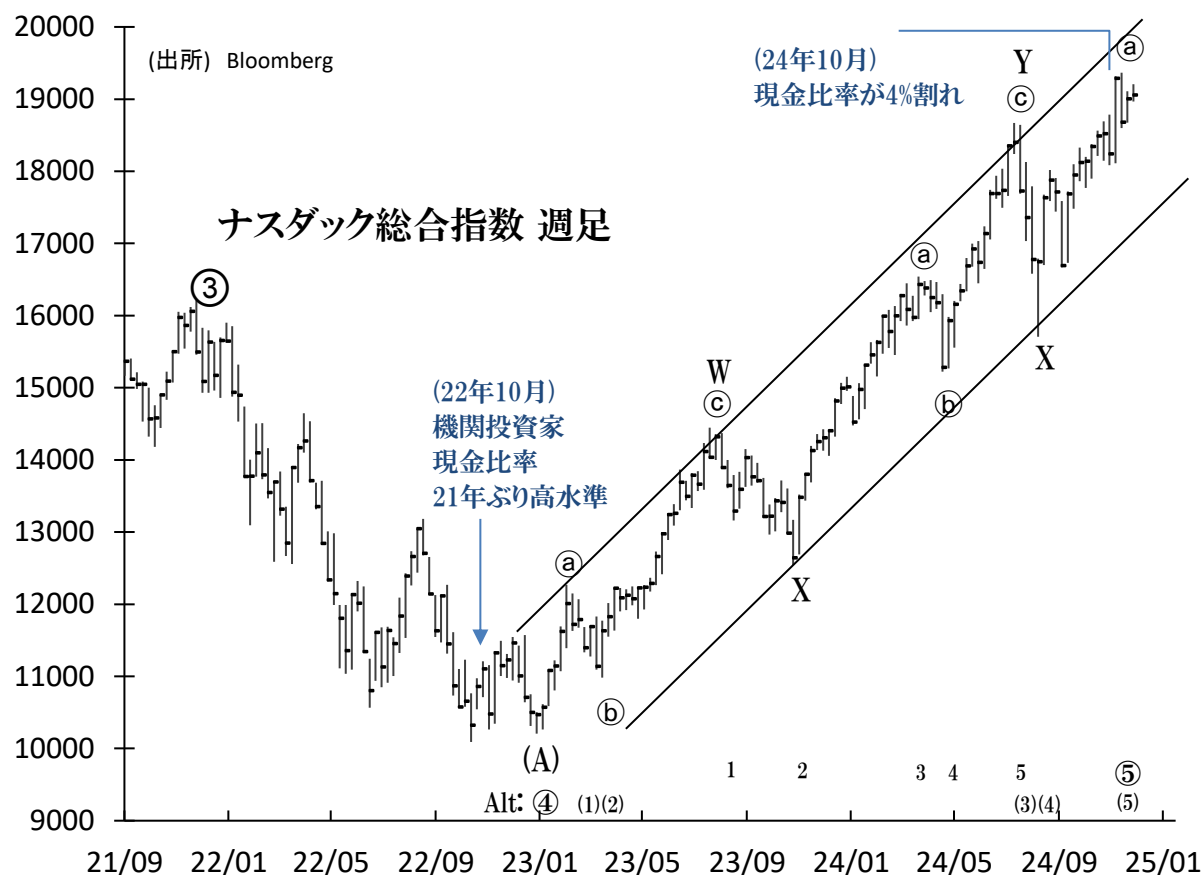
(c)波は(a)波と同じように五波構成(i 波～v 波)になるとみています。そのうち、42,938ドル(11/19 安値)からの上昇は第 iii 波に位置付けられます。

ちなみに、先述した 4 万 6000ドルより下位のチャート節目は[45,244ドル]です。これは 22 年 1 月からの(A)波下落と、22 年 10 月からの(B)波上昇が、1:2 になる水準です。

なお、上記強気見通し継続のためには、米大統領選での結果を受けて生じた 11 月 5 日～6 日のギャップ(42,258ドル～42,850ドル)を埋めないことが最低条件です。

仮にギャップが埋められると「トランプ・トレード」終了が証左され、より大きな調整に—(C)波の調整に—備える必要があるでしょう。

ナスダック



【週足 エリオット波動分析】

22 年 12 月安値(10,207)以来、(B)波による上昇が進行中です。この(B)波は[トリプル・ジグザグ(W-X-Y-X-Z)]を形成し、25 年まで続くと思われます。

プリファード(優先)カウント

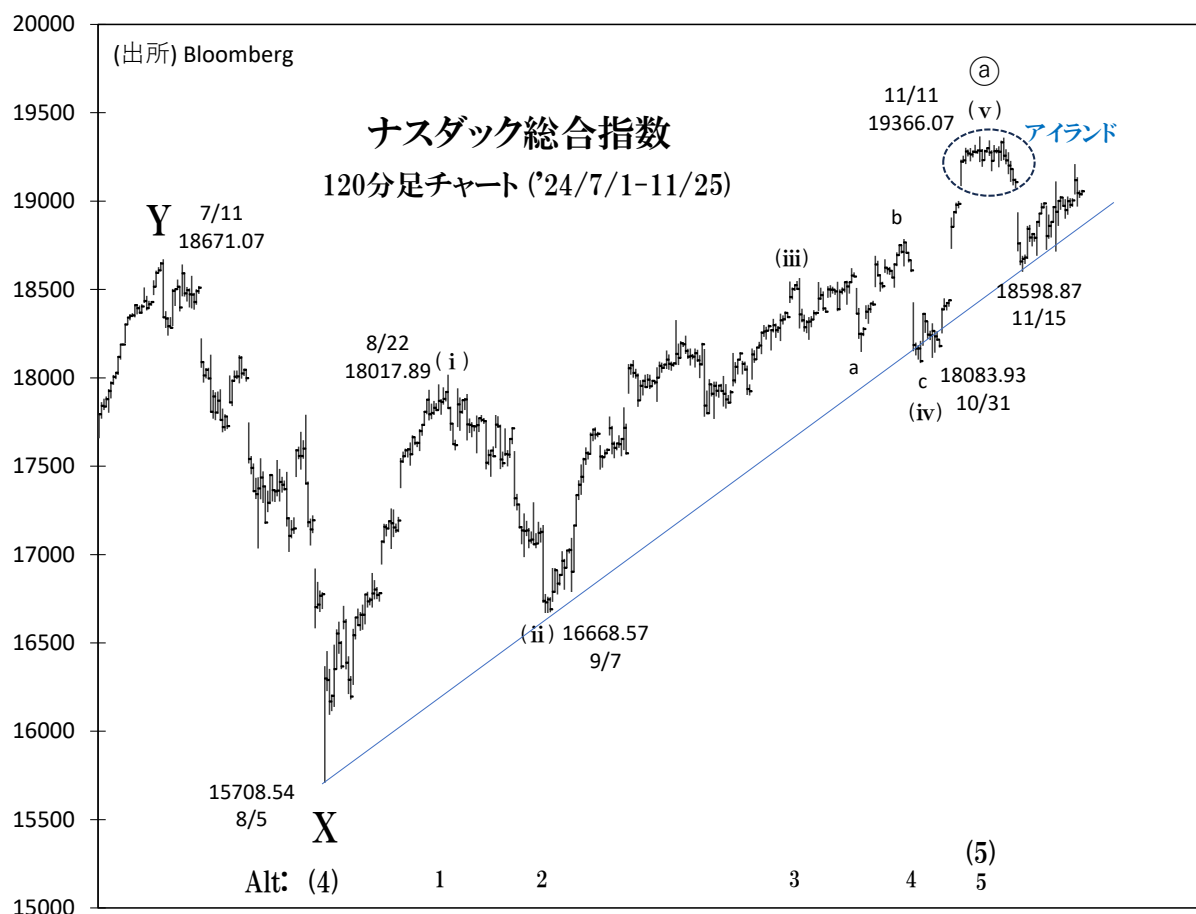
15,708(8/5 安値)から、三番目のジグザグ(①-②-③)が進行中です。今のところは②波の終盤とみられ、近いうちに③波の調整が起きるでしょう(既に③波入りかもしれません)。③波を完了すると④波の上昇に入りますが、それを以て 22 年 12 月を起点とする、(B)波による上昇はすべて完了します。

オルタナティブ(代替)カウント

22 年 12 月安値からの「五波動」による上昇第⑤波は終わったか、終わりつつあります。これによれば 25 年以降ナスダックは、優先カウントよりも深く、長い調整局面を迎えるでしょう。

機関投資家の現金比率が 4%割れ(売りシグナル)

米バンク・オブ・アメリカの 10 月の機関投資家調査によると、運用資産における現金比率は 3.9%と 21 年 2 月以来の低水準となりました。これは投資家が積極的にリスクを取っている表れですが、現金比率の大小は逆張り指標であり、経験則では現金比率 4%割れが「売りシグナル」とされます。ちなみに今回とは真逆のケース、例えば現金比率が 21 年ぶりの高さだった 22 年 10 月などは、実は買いの好機だったことがわかります。



【時間足 エリオット波動分析】

15,708(8/5 安値)からの④波による上昇は、19,366(11/11 高値)を以て終了したとみられます。そこからは**⑤波による下げが始まったとみられます。**

19,366(11/11 安値)からの戻りは鈍く、チョッピー(choppy)なパターンです。これは足元の NY ダウの上昇(インパルスな急上昇)とは大きく異なる点です。**18,598(11/15 安値)を下抜くことをきっかけに、⑤波の下げが再開するでしょう。**

⑤波の下値メドは 1 万 8000 処です。この付近には、④波のレサードイグリー第(iv)波安値[18,083]、8月22日の高値[18,017]、8月からの上昇の38.2%押し水準[17,970]などが集中しています。

1 万 8000 処を明確に下抜くと、8月からの上昇に対し50%-61.8%押し[17,539-17,108]へ下振れしそうです。

なお11月高値からの下降波が五波構成(インパルス)となり、さらに1万7000処を下抜くようなら、より大きなスケールの調整が進行中とみるべきでしょう(週足分析でのオルタナティブ・カウントを参照)。この場合、8月からの上昇第(5)波が19,366を以て終了し、当面15,708(8/5 安値)を試す展開となりそうです。

米ドル/円



【月足・エリオット波動分析】

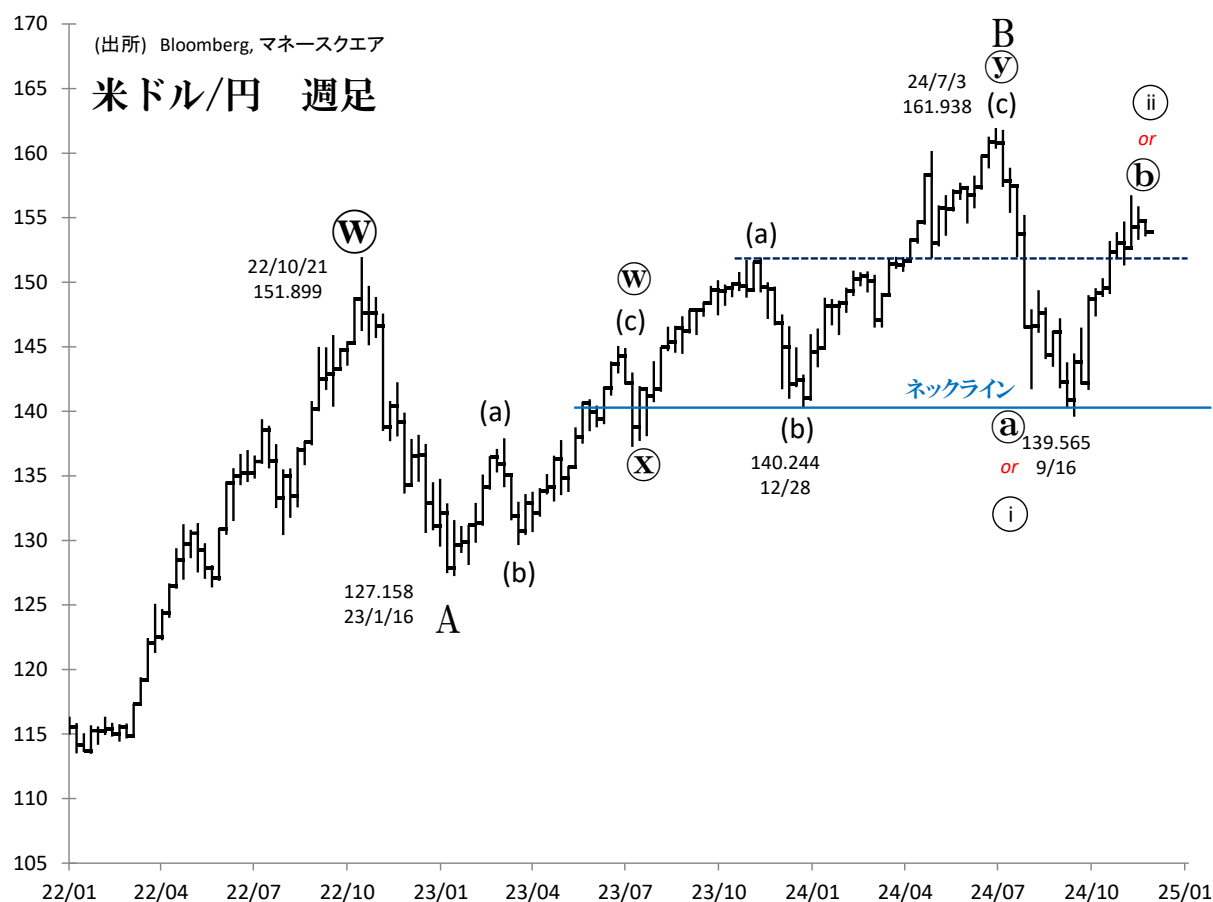
151.899 円(22/10/21)からは⊗波の「円高局面」が進行中です。この⊗波により米ドル/円(ドル/円)は、2028 年 4 月頃までレンジ相場を形成していくでしょう。161.938 円(7/3)は、15 年 6 月・125.860 円から 9 年目に付けた「8 年サイクル高値」とみられます。

22 年 10 月以来の⊗波が描くパターンとして大きくは、①[ランニング・トライアングル]、②[エクспанディッド・フラット]、これら二通りの可能性があります。なお①のもうひとつのパターンとして[ランニング・フラット]もあげられましょう。

①の場合、現行 C 波は A 波安値(127.158 円)を下回りません。C 波は三波で構成され、2011 年からの上昇チャネルのセンターライン(↑①)が強いサポートになるでしょう。

11 月中、①の水準は 135.145 円に位置します。

②の場合は、現行 C 波(五波構成)はチャネル下限(↑②)を目指すような、より大きなドル安・円高が見込まれます。11 月を通じ、②の水準は 115.520 円となっています。



【週足 エリオット波動分析】

161.938 円(7/3)からは、C 波によるドル安・円高です。C 波の長さは A 波と同等か、フィボナッチ比率関係を反映します。

[137.197 円]…A 波の長さ(24.741 円)=C 波の長さ

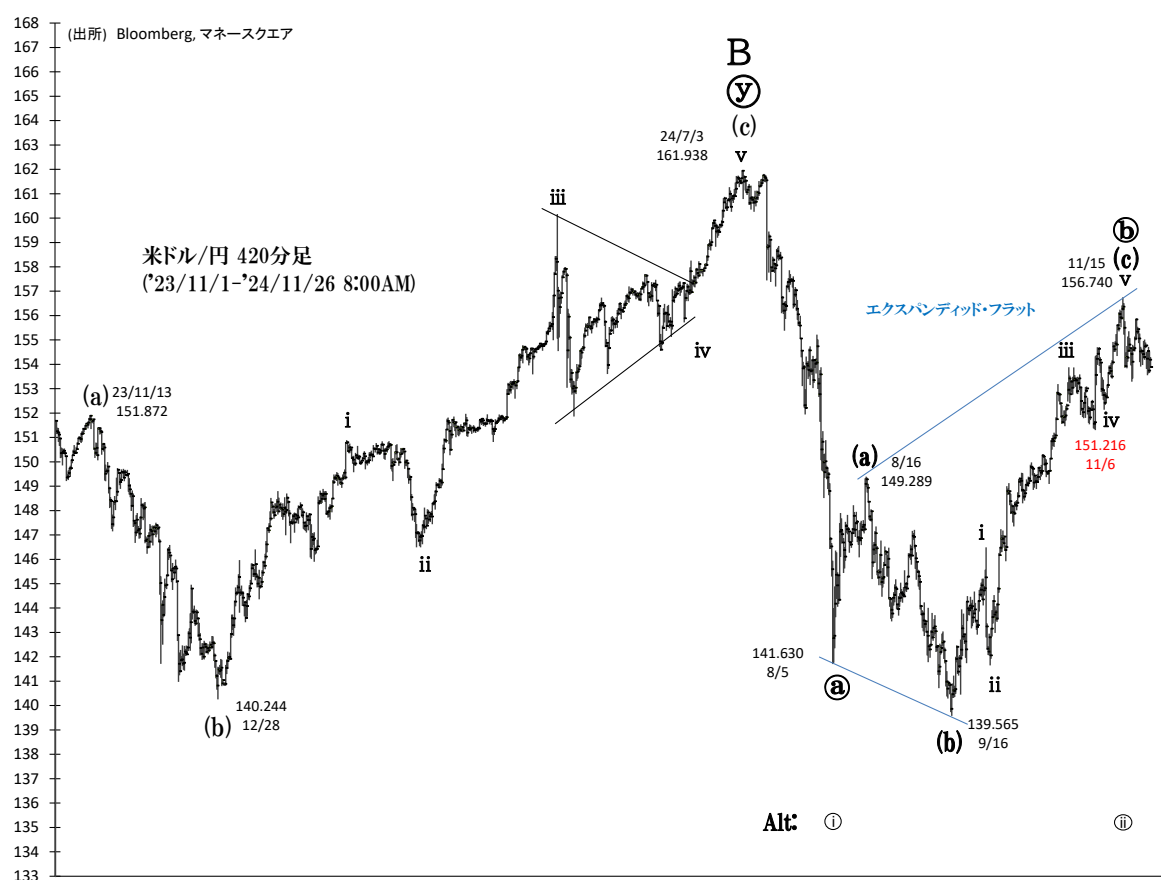
[131.358 円]…A 波の長さ×1.236=C 波の長さ(30.579 円) (※)この時点でドル/円は月足サポート①を明確に下回り、以下の水準を目指す可能性が高まります。

[127.745 円]…A 波の長さ×1.382=C 波の長さ(34.192 円)

[121.907 円]…A 波の長さ×1.618=C 波の長さ(40.030 円)

23 年後半からのパターンが、140 円処をネックラインとする『ヘッド・アンド・ショルダーズ(三尊天井)』だとすると、天井パターンにおける右肩トップ示現後、ドル/円は下落に転じるでしょう。さらにはネックライン割れをきっかけに、ドル安・円高の流れが強まると想定されます。

足元のドル/円上昇は、C 波中②波、あるいは C 波中マル ii 波に当たります。いずれのカウントを採用しても、近く始まるドル安円高(◎波 or マル iii 波)は、波 3 に相応しく、速く・大きなものになるでしょう。



【時間足 エリオット波動分析】

141.630 円(8/5)からは⑥波によるリバウンドであり、そのパターンは「エキスパンディッド・フラット」(a)-(b)-(c)とみられます。139.565 円(9/16)からは⑥-(c)波に相当します。

直近の 156.740 円(11/15)は、以下のチャート節目に近く、リバウンドは終わったか、終わりつつあります。

[156.657 円-157.150 円]…7 月から 9 月までのドル/円下落に対する 76.4%-78.6 戻り水準

[157.145 円-157.592 円]…7 月から 8 月までのドル/円下落・④波に対する 76.4%-78.6%戻り水準

151.216 円(11/6)を下抜くと—このとき 26 週 MA も同時に下抜くことでしょう—ドル/円が下落基調へ転換した、最初のシグナルが点灯します。

金利差からのドル/円推計値

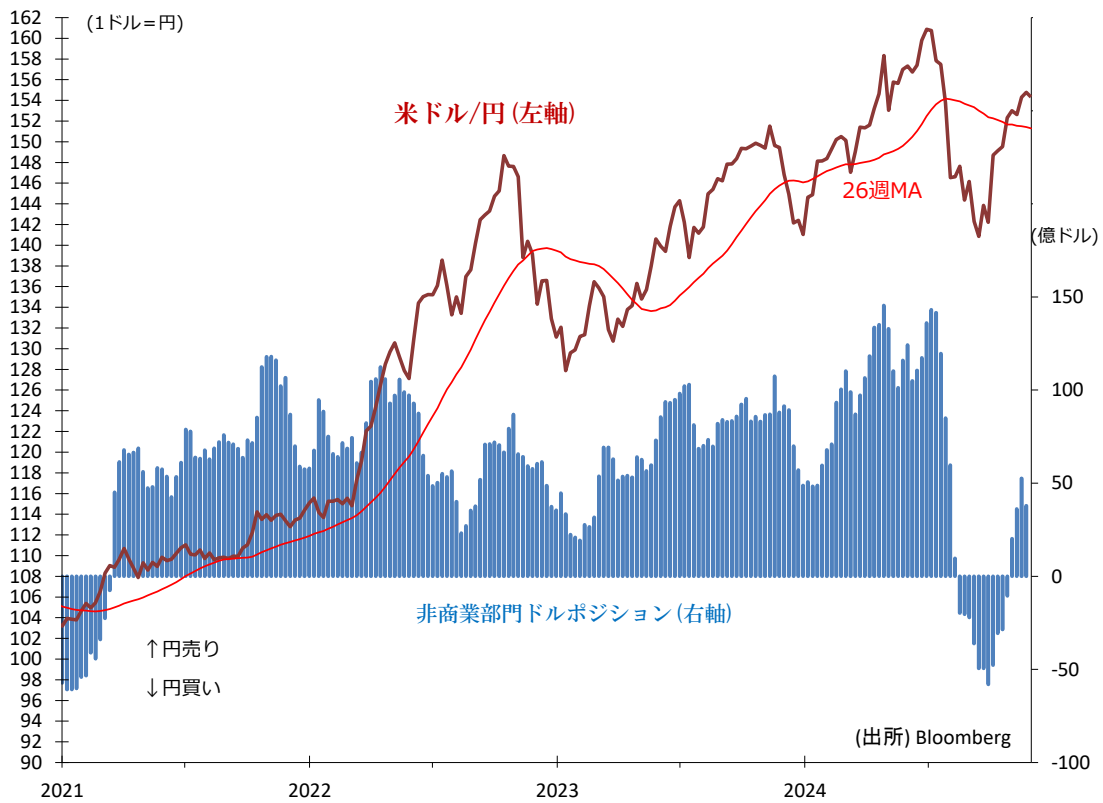
日米実質金利差からのドル/円推計値は[146.59 円]。この推計値に比べ、ドル/円の水準はかい離しています。このような状況は長く続かず、近いうちにかい離は縮小に向かうと思われます。



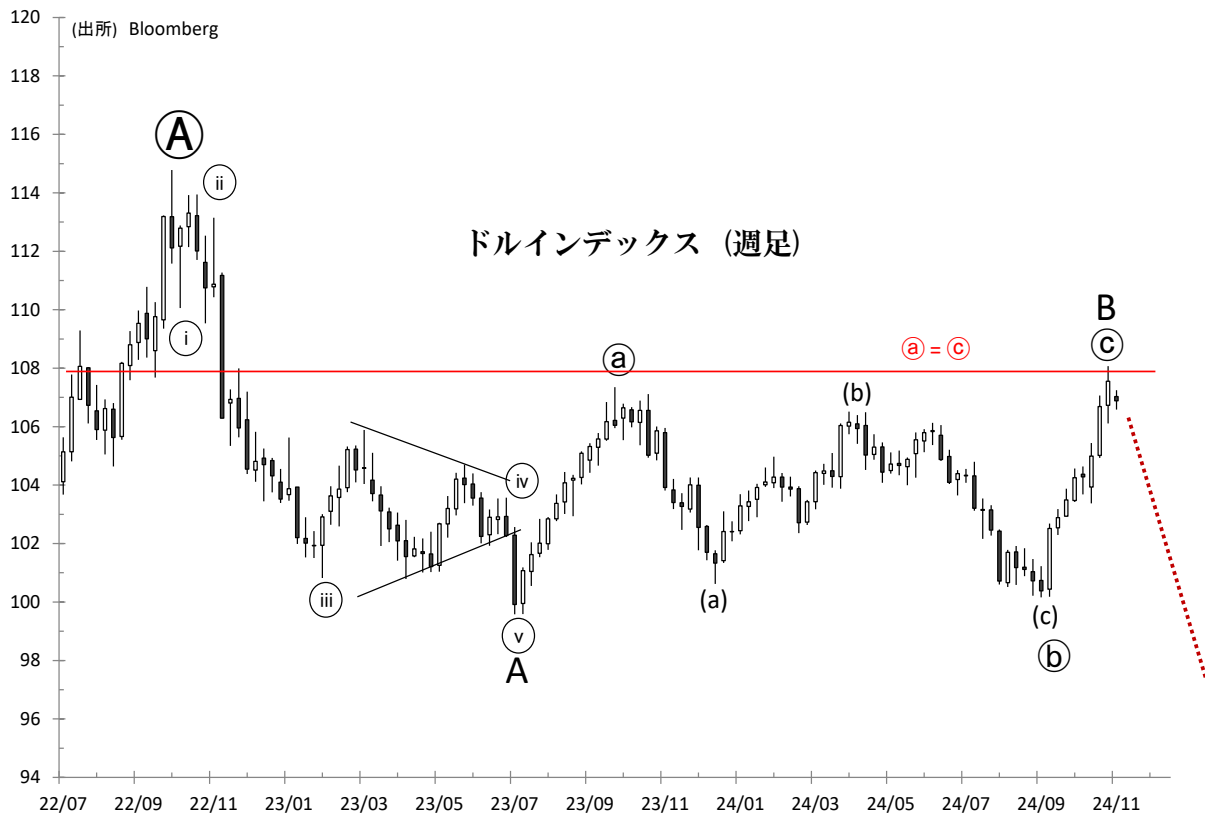
投機筋の円売り持ち高は3週ぶり縮小(11月19日時点)

IMM 通貨先物市場では、投機筋(非商業部門)による円売り持ち高が、前週の52.5億ドル(3カ月半ぶりの大きさ)から37.9億ドルへ減少しました。円売り持ち縮小は3週ぶりです。

投機筋にとってのドル/円売買基準である、26週MA(151.30円)を維持する限りは円売り基調に変化はなさそうです。一方26週MAが破られてからは、円買い基調が強まるでしょう。



ドルインデックス（ドル指数）



【週足 エリオット波動分析】

22 年 9 月高値(114.778)以来、ドルインデックス(ドル指数)は②波(A-B-C)による下落局面にあります。

23 年 7 月安値(99.578)からは B 波によるリバウンドであり、それは「[フラット](a-b-c)」とみられます。そして、9 月安値(100.157)以来のドル高は B-③波に当たり、これを以て B 波全体が完成します。

11 月 22 日には一時 108.071 まで上昇し 1 年ぶり高値を更新しましたが、それは[107.927] (a波とc波が等しく上がる N 計算値)を満たしています。さらにその直後、ドル指数は急反落している点が注目されます。9 月からのドル高(B 波)は終了し、ドル安(C 波)が始まったかもしれません。

一方、9 月からのドル高継続の場合は、[108.972](22 年からのドル安に対する 61.8%戻り)を試すでしょう。

ドル高は終わったか終わりつつあり、ひとたび C 波によるドル安が始まれば、25 年には 23 年安値 [99.578]を大きく下回るでしょう。

②波は最終的に、[90.930]、[89.209]を試す可能性があります。前者は A 波と C 波が等しく下がる水準、後者は 21 年 1 月に付けた、A波のレサラー・ディグリー(4)波安値です。

※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。

※当レポートのデータ情報等は信頼できると思われる各種情報源から入手したものです。当社はその正確性・安全性等を保証するものではありません。

※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

当社サービスに関する注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引および取引所株価指数証拠金取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもあります。お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引および取引所株価指数証拠金取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引における取引手数料は無料です。

・取引所株価指数証拠金取引における委託手数料は注文が成立した日の取引終了後の値洗い処理終了時に証拠金預託額より、新規および決済取引のそれぞれに徴収いたします。手数料額は、通常 1 枚あたり片道 303 円(税込)、NY ダウリセット付証拠金取引および NASDAQ100 リセット付証拠金取引は 1 枚あたり片道 33 円(税込)です(ただし、建玉整理における委託手数料は無料です)。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差(スプレッド)があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がる場合があります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4%以上です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率(為替リスク想定比率)を基に当社が算出した証拠金率を乗じた金額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率(為替リスク想定比率)は変動いたします。店頭 CFD 取引に必要な証拠金額は、取引総代金の 10%です。取引所株価指数証拠金取引に必要な証拠金額は、商品ごとに当社が定める 1 枚あたりの必要証拠金の額に建玉数量を乗じる一律方式により計算されますが、1 枚あたりの必要証拠金額は変動いたします。

金融商品取引業 関東財務局長(金商)第 2797 号

【加入協会】日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会
株式会社マネースクエア
